



## あなたの教室に天文学者を届けます！

国立天文台は、天文学者が小中学校へ出向いて授業を行う「ふれあい天文学」を実施しています。2020年度からは、オンラインでの授業も始まり、昨年度は聾（ろう）学校、特別支援学校、夜間中学、世界各地の日本人学校や補習授業校などでも授業を行いました。例年40名を超える天文学者が講師となって、太陽や月のお話、星の誕生のしくみ、ブラックホールの不思議、太陽系を旅する宇宙旅行といった、星や宇宙の話題を国内外の小中学校に届けています。今度はみなさんの学校で天文学者の授業を行ってみませんか。

ふれあい天文学：<https://prc.nao.ac.jp/delivery/>

## 「ふれあい天文学」ってどんな授業なの？



昨年度は、国内では北は北海道、南は沖縄、小笠原など69校で、海外は30校で実施されました。

授業のタイトルは

- 宇宙のふしぎ
- 星の世界を旅してみよう
- 宇宙人はいますか
- どこまでわかったのか！宇宙と生命の起源～第2の地球はあるのか？～ などいろいろ。

若手の研究者から国立天文台の重鎮、そしてテレビで見かける天文学者まで参加しています。

## 子どもたち・先生・天文学者の感想

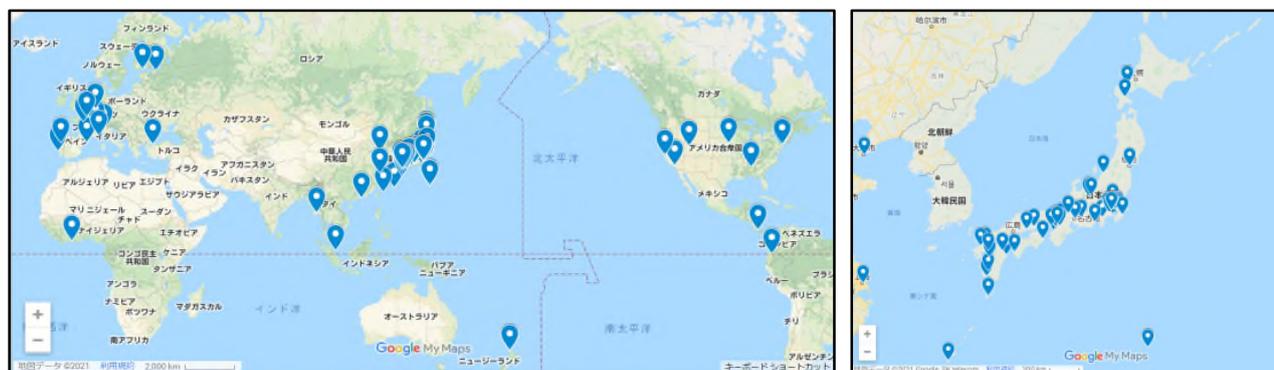
子どもたち、学校の先生、天文学者から寄せられた感想をご紹介します。

- 自分は将来うちゅうに行って、月に家をつくるのが夢です。話のスケールが大きすぎて頭がおかしくなりそうでした。（小学生）
- 視力300、岡山から月にあるゴルフボールを見るという視力がないとブラックホールが見えないということにとっても驚きました。（中学生）
- 講師の先生は、宇宙に限らず興味を持ったことが明らかになるまで追求していくことの重要性を伝えてくれていると感じました。（中学生）
- オンラインだと中だるみしがちですが、あっという間の1時間半でした。みんな、すっかり先生のファンになってしまいました。先生との出会いによって、天文学に対する興味が広がったようですし、世界で活躍する日本人ということで生徒にとって大いに刺激になったと思います。（教職員）
- 研究して楽しい、興奮してワクワクするんだということを知ってほしかった。（天文学者）
- 「生徒さんが進路を考える上で参考になる話をしてほしい」というリクエストを事前に先生方からいただいたので、経歴や生徒さんへのメッセージを含めました。（天文学者）

## 授業風景



## 実施先（2020年度）



## 実施概要

- ◆対象：国内外の小学校（4年生以上）、中学校
- ◆授業時間：45～100分（1～2コマ）程度
- ◆内容：天文学に関わる授業と質疑（詳しい授業内容は、学校と講師と相談の上決定）
- ◆実施期間：毎年10月から翌年2月の間（学校と講師と相談の上決定）
- ◆実施方法：講師を派遣する訪問授業、オンライン授業（学校と講師と相談の上決定）
- ◆応募締切：5月末日
- ◆その他：授業内容・実施日など詳しくは講師と相談の上決定していきます。  
この事業は「天文学振興募金」の支援を受けており、実施校の負担はありません。